

「民泊」問題を考えるつどい

主催(議) 日本共産党京都府委員会 / 日本共産党京都市議会議員団

このままでは 京都が京都でなくなる! 「違法民泊」なくし 住んでよし、訪れてよしの京都を

6月11日「民泊」問題を考えるつどい



▲管理者のいない「番号キー」
▼ルール無視のゴミ出し

京都市内では、無許可の「違法民泊」が急増し、仲介サイトに登録されているものだけでも5000件を超える事態となっています。管理者の連絡先もわからず、深夜の騒音、ルールを無視したゴミ出しなど、様々なトラブルが起こり、住民の静かな生活が壊されています。

さらに、投機目的で空き家などを買い占め、次々と「民泊」が建設されるなど、新たな京都のまち壊しが進みつつあります。

党議員団は、5月17日、「民泊」が急増している東山区の実態調査を行いました。住民のみなさんの不安の声もお聞きしました。みなさんと力を合わせて、住みよいまちを守るため全力をあげます。

「民泊」対応の体制強化を 各区役所から1カ所^{18人}に集約化

京都市は「民泊」に対応する部署を各区役所から、市内1カ所18人体制に集約してしまいました。事態はますます深刻の度を増しています。

「違法民泊」をなくすために、区役所に職員を再配置し、しっかり対応できる体制が必要です。

美術館モニュメント切断撤去、 世論の力で中断

問われる京都市の文化行政のあり方

京都市美術館の再整備の一環で敷地内のモニュメントが、京都市によって10個に切断・撤去される計画が明らかになりました。京都市自らが美術館の収蔵作品を破壊するという前代未聞の暴挙です。これで、「文化を基軸に」などと言えるのでしょうか。京都市の文化行政のあり方が問われています。

京都彫刻家協会をはじめ、多くの美術家や市民らの反対運動が広がる中、切断工事は中断されました。「移設ありき、切断ありき」の方針を撤回し、専門家の意見や提案を幅広く聞き、保存すべきです。



▲京都市民報社提供



京都市美術館のモニュメントとは

「空(くう)にかける階段'88-II」は、京都市が1988年に市文化功労者であり彫刻家の富樫実氏(市内在住)に制作を依頼したもの。高さ11メートルの花こう岩で作成、設置され、長年市民や観光客らに親しまれてきた大変貴重な彫刻。